

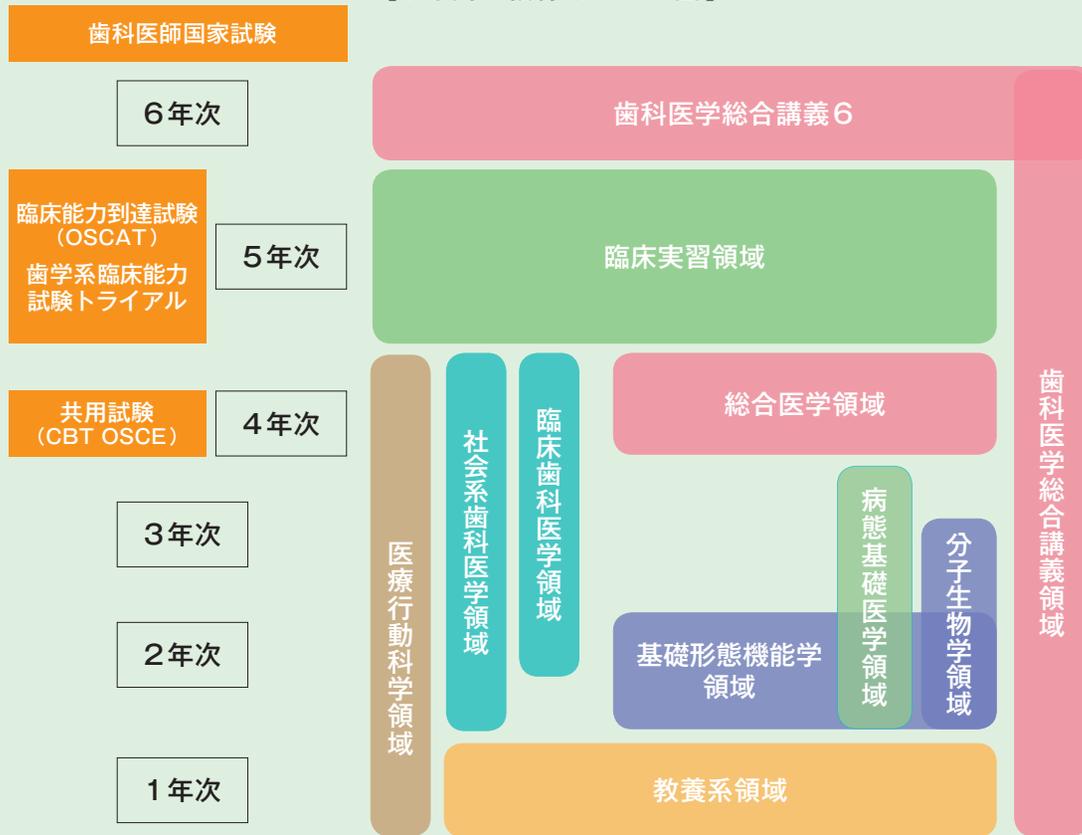
6年間の教育の特色

歯科学を「口腔科学 (Oral Science)」と捉え、医学の一分科として教育

超高齢社会を迎えた日本の歯科医療は、う蝕や歯周病などの疾患型の治療にとどまらず、口腔の健康を保持増進して全身の健康維持や健康長寿の延伸に繋げることに大きな期待が寄せられています。松戸歯学部は創設当時から、歯科学を「口腔科学 (Oral Science)」と捉え、医学の一分科としての教育を展開しており、医療人の人格を備えた全人的な歯科医師の育成をめざしています。取り組みの一つとして、基礎歯科医学

と基礎医学の「学問体系別講義」と、1つのテーマにさまざまな専門分野の教員がアプローチする「統合型講義」を連携させた総合的な教育体制を敷いています。また、各学年で段階的に知識や技術を修得できる「歯科医学総合講義」を設置し、一人ひとりの学修到達度を確認しながら効率的に学修を進めることのできる独自の「歯科医学教育システム」を確立しています。

[6年間の教育イメージ図]



学生教育の質を高める「教育・学修総合センター」と学生の学修を支援する教育システムを構築

患者さんの健康を預かる歯科医師を教育する現場において、学生教育の質を常に高めていくことは非常に重要です。松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、教員・職員・学生が三位一体となり、学生の学修を支援する教育システムを構築するとともに、学生の成績等のデータを収集し、それに基づいた教材を作成して学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、学生一人ひとりの「学修カルテ」を作成し、全ての試験成績に基づいて分析したデータを個別指導の時に学生にフィードバックして、学びを確実に進められるようきめ細やかなサポートを行っています。

地域歯科医療の中核を担う付属病院で優れた臨床能力と人格を身につける

松戸歯学部の学生が臨床実習を行う場合は、最新のCT (歯科用CBCT)、MRI、血管造影装置など診療機器や国内初の電子カルテを導入した日本大学松戸歯学部付属病院です。同病院は地域における歯科医療の中核的な役割を担っている上、厚生労働省から歯周病関連の高度先進医療機関として認定を受けています。全国歯学部付属病院の中でもトップクラスの来院者数の付属病院での実習を通して専門知識や技術のみならず、患者さんに対する思いやりや奉仕的精神をしっかりと身につけ、即戦力となる優れた臨床能力と人格を備えた歯科医師の育成を目指します。